

第9回 ふくろうふれ愛まつり 秋晴れの中、1,200人を超える来場者



10月26日(日)、例年ない快晴のもと、第9回ふくろうふれ愛まつりが開催されました。テーマを『みんなが手話で話す淡路島』とし、1200人を超える人が手話での話に花を咲かせていらっしゃいました。

兵庫県立淡路三原高等学校による迫力ある和太鼓演奏に始まった式典では来賓の方々からご祝辞をいただいたあと、中川原ふれあいセンター前にふくろうの郷の案内看板を建てるためにご尽力いただいた神代匠様、嶋岡博明様に感謝状の贈呈を行いました。

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/
メール
info@hyoufuku.main.jp

県聴覚障害者協会を実施主体とした聴覚障害者自身による生活実態とニーズ調査の報告書が完成し、ふくろうの郷にも届けられました。阪神淡路大震災から間もなく20年を迎えようとしている今、最大の要望は「コミュニケーションの保障された身近な施設を増やしてほしい」でした。年収150万円未満が73.46%という貧困に加えて、災害時に頼りになる人は家族親戚がいればよいのか。報告書の問い合わせは総務まで。

《ふくろう文化展》

自分史—自分を語る

10月26日(日)ふれ愛まつりの文化展には、入所者の方々が活動された、手芸・書道・絵・ちぎり絵を展示しました。入所者の生活の様子を画像にて液晶モニターに映し出しました。

この他には自分史の展示をしました。ろうの方々が、ふくろうの郷に來られるまで、どのような人生を送られてきたのか。自分の人生を語り、本に仕立て上げる作業をしています。

人生について3名、簡単にですがまとめさせていただきました。文化展をご観賞の方々が、興味を持ってお読みいただき、少しでも多くの方々に知ってもらうことができましたことを、嬉しく思います。

辛島様：甥御様との関わりや伝達に、互いに悩み苦しまれた経歴をお持ちです。甥御様による語り。

土居様：来年、百歳を迎えられます。生まれ育った家庭環境・様々なろうあ活動をされたことを展示。

中村様：土居様の弟であり、土居様のご主人と共に働いた経歴をお持ちであることを展示。

この3名の人生について展示をしました。本に仕上がりましたら、是非ご購入をよろしく願います。

(企画担当：和田彩加)

《感謝とお詫び》

予想を超える皆様のふれ愛まつりへのご参加、誠にありがとうございました。準備していた「振る舞い」、1200部用意していた「パンフレット」の数が足りなくなり、「ご来場いただいた皆様にお届けできず、大変申し訳ございませんでした。



手話芝居「水戸黄門」で訴え 食費部屋代が月2万円も重く

祭りの目玉である”入居者劇”が今年もまつりで開催されました。以前、私たちの生活を大きく変えてしまう切実な制度の問題について「ろう者が安心して暮らせる社会を！」と厚生労働省へ要望書を提出しました。その想いをまつりに来て下さった方にも改めて知ってもらうために「水戸黄門」で劇を行うことになりました。

劇の練習では参加する入居者6名が集まり、水戸黄門の内容や雰囲気、各々の担当を確認しながら進めました。職員からだけでなく入居者同士で教え合い、助け合っていたことがとても印象的でした。実際に衣装を着て舞台上で練習を行った際には、とても目を輝かせながら楽しみ、ひとり一人が一生懸命取り組んでおられました。

当日は暑すぎるほどの天気の良い中、劇の時間になるとそわそわ、どきどき…。着替えやメイクを終え、いざ出陣！滝のような汗をかきながらも全員が自分の出番をしっかりと演じてくれました。最後には「障害福祉年金が命の綱。食費・居住費の負担増困ります」「もつと生きたい、学びたい」と入居者自身で書いた横断幕を掲げ拍手喝采で終了しました。

私たちろう者がもつと安心して暮らせる社会をつくるために、今後も皆さんのご協力をいただきながらもつともつと頑張らなければならぬと感じた一日でした。

(担当…中西)



▲黄門様(黒崎時安自治会長)も一緒に「改悪反対！」

手話言語法へ向け 足並み揃えて

淡路島3市では9月の各市議会において手話言語法制定の国への意見書を採択しました。今後は市の条例として「手話言語条例制定」にむけて進んでいきたいものです。

今年のおふれあい祭りでは「みんなが手話で話す淡路島」をテーマに掲げ、行政・地域の方々に「手話言語条例とは何か」を知っていただけたのではないかと思います。

そして、当法人としては聴覚障害者だけでなく他の障害者や子供、お年寄りも含めた、だれもが排除・孤立に追いやられない地域づくりとして地域創生・地域包括支援なども含めた様々な地域課題に広えて「中川原地域ふれあい農園」「多世代交流多機能事業」などインクルーシブな地域づくりをめざしていきたいと思えます。(楠本)



▲南あわじ市議会での意見書可決の様子(9月26日)

模擬店

今年も島内だけでなく徳島や神戸からも模擬店が集まりました。また、例年通り今年も第4回目となるB級グルメ大会を開催しました。受賞団体の皆様、おめでとうございませう。受賞団体代表者のコメントです！

★3位 地域活動支援センターやまもも(アイラブ焼き) 32票★

私たちは淡路ではありません。阿波踊りで有名な徳島から来ました。第5回から毎年呼んでもらっています。初めてこのB級グルメで入賞しました。感激しています。平成十八年障害者権利条約で「手話は言語である」ということが採択されたのをきっかけにアイラブ焼きを始めました。アイラブ焼きをきっかけに手話のこと、ろう者のことを広めたいと思っています。(やまももでは)必ずろう者と聞こえる人が営業に行くようにしています。頑張った結果賞を頂けたと思っています。皆さんのおかげです。

★2位 神戸ろうあ協会垂水支部(チチミ焼き) 75票★

去年一昨年2年続けて1位で、今年も1位かと思いましたが、2位という事でショック・・・ではなく、皆さんに賞をとって

いただき、皆さんも買って下さりありがとうございます。もっと寒かったらよかったかな？2位の賞をもらったのは皆さんのおかげです。来年も来ます。また買って食べて下さい。

★1位 出張！ふれあい男の料理講座(きしめん、卵焼き) 91票★

私たちは中川原地域のふれあいセンターの男の料理教室で、野郎どもが定期的に集まって料理を作っています。味にこだわって、食べた後「おいしい」と言われることを頭に置いて、昨日の買い出しから今朝早く集まって頑張りました。来年以降もよろしくお願ひします。

受賞の賞品として、

- 1位には1万円分の牛肉(提供・鮎原物産様)、
- 2位にはカップラーメン90個(提供・ヤクルト様)、
- 3位には淡路産玉ねぎ10kg(提供・井関様)が贈られました。(担当…高田、滝本)

★第4回B級グルメ大会結果★

- 1位 出張！ふれあい男の料理講座(中川原町有志) 《きしめん・卵焼き》
- 2位 神戸ろうあ協会垂水支部 《チチミ焼き》
- 3位 地域活動支援センターやまもも 《アイラブ焼き(人形焼)》
- 4位 手話サークル津名 《漁師鍋》
- 5位 兵庫手話通訳問題研究会 《書籍・DVD》

京都いこいの村まつりに ふくろうから模擬店出店！

十月十九日、日曜日。秋晴れ。職員と入居者8名が京都府綾部市『京都いこいの村まつり2014』に初めて模擬店出店という形で参加しました。まつりは大勢の出入でにぎやかで、ふくろうの郷の入居者さん達も、屋台の美味しい食べ物を食べ、買い物や手話でのお喋りを楽しみました。(担当…中西)



▶北川さん手作りの封筒を買ってくださいました



▲模擬店販売を頑張っていた吉見さん・竹邊さん・富永さん

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

手話での出会いから

難聴で生まれましたが、ずっと普通校で学んできた若狭さん。大学で、同学年のろう者に情報保障で手話通訳が付き、「授業内容がわかる！先生の性格まで分かるし、自分の思いも伝えることができる手話はすごい。健聴

**聴覚障害をもつ心理士として
関わった事例を通して**

講師 若狭妙子氏

第23回ふくろう学習会

10月12日

者に近づこうと頑張ってきたこの20年間はなんだったのだろう？」と、しばらくはショックで立ち直れなかったそうだ。

聴覚障害があると分かった後のフォロー

最近では生後数日後に新生児スクリーニング検査で、聴覚に何らかの異常があると、医師から告知を受けて療育機関に繋がります。その後、補聴器活用や人工内耳の手術の選



▲自分の体験も含め語る若狭講師

ことが分かった幼少時から福祉などの相談機関に繋がること、また、青年、成人の聴覚障害者へのグループワークを通じての意思形成の取組みも行っています。その結果、2年が

扱を親が迫られます。「聞こえ」という機能障害に重きをおいた指導助言がなされるわけです。

難聴児であっても、聞こえにくく、人としての一番大事なスタートである母子関係が十分に行えませんが、その後、言語力、思考力、対人関係力、社会性など様々な面で影響を及ぼし、心理的な問題を抱えるようになります。

「聞こえない」ことほどんな支障を及ぼすのか

若狭さんは、聞こえにくい

かりでやっと心理士が誘導しないで自分の意思を出し合えるようになった事例も。

支援の専門機関の体制づくりを

講演後、参加されていた方数名が講師を囲み「同じ体験をした。辛かった。」と感想を述べられていました。淡路島内にも、普通学校に通学している難聴児や人工内耳を装着した方がたくさんおられるようですが、センターに繋がっている人はわずかです。センターにも専門の心理士や言語聴覚士を配置し、支援体制を整えたいものです。(瀬田)

紙芝居で人生を語る



「今、構想を練っています。素敵な紙芝居に仕上げたい」とイラストレーターの奥山さん。

手話奉仕員養成講座では、ろう講師が自分たちの生立ちやろう学校での話などの講演をしています。そこで、大人から子供まで分かりやすく伝わるようにと、現在紙芝居づくりに取り組んでいます。紙芝居を作っているのはろう者でプロのイラストレーター 奥山洋介さんです。ろう者の語りをビデオ撮影し、それを基に紙芝居にか今から楽しみます。

「稲刈り忙しいけど行ってみよか。」

～第9回ふくろうふれ愛まつりに参加して～

大田原 豊さん(78歳)は先天性ろうあ者です。いつもは兄家族と一緒に家で農業や牛のお世話を毎日休まずされています。先日、ふくろうふれ愛まつりのお誘いに行くと「う～ん…稲刈りがあるしなあ」と迷いながらも仕事の合間をみて参加されました。当日は舞台を観て楽しんだり、模擬店で食事されたりしてまつりを満喫されていました。お祭りが終わった後は、稲刈り頑張ってくださいね。(楠本)



▲模擬店で買い物する大田原さん

久しぶりに仲間と会って手話で話し、買い物もたくさんしたよ。

お知らせ

洲本市では日常生活用具に、テレビ電話(聴覚障害者用映像型通信装置)が新たに加わりました。

社会生活教室で申請条件などについて一緒に学びましょう。

おのころの家



〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995



10月26日に開催されたふろろふれあい祭りにあわせてふれあいセンターもバザーや子供向けの催しなどを行い、大勢の来客がありました。
おのころの家からも利用者さんが催しの受付や販売員などの担当で参加しました。

職員、利用者さんとでみなさんをおもてなし～ふれあいセンターの催し物～



▲掘り出した芋を手を武内さん

まつり当日に、収穫したサツマイモを焼き芋にして販売しました。しかし味が…甘みがほとんどなかったとのこと。
せつかくみなさん土まみれになって収穫したさつまいもでしたが、次回への課題です。

**おのころの家農業日誌⑤
収穫されたサツマイモを
焼き芋に、しかし…**

ふれあいセンター運営委員の皆さまのご協力で、気軽に呼び込みをおこなっていただき、賑やかで和気藹々とした雰囲気で行えました。
ご協力いただきありがとうございます。ございました。

簡単な手話も学べる指文字ゲームや、バルーンアートに輪投げ、スーパールボールすくい、ヨーヨーつりなど子供たちがむけのゲームや、ポップコーン、わたあめ、ピザ等の販売も行いました。

**台風被害を乗り越えて
しつこなまち歩きでの販売**



台風の影響もまだ残る10月18、19日、洲本市内で開催された「レトロなまち歩き」に参加し、おのころ屋から焼き立てのパンやクッキー、手芸品などを利用者の皆さんと販売しました。
当日は朝から快晴で人の流れも多く、焼き上がったばかりのパンが届くとすぐに人だかりができ、あつという間に売れていきました。
歩行者天国もあり、利用者さんたちは販売の合間に買い物など賑わいを楽しみました。台風被害から初の大きなイベントを無事に行うことが出来ました。

**台風19号による
おのころ屋の被害**

当日13日は祭日でおのころ屋は休業日でした。

前日から台風の進路を気にしていたのですが、直撃するとは思っておらず、テレビを見ると淡路島を通過し、その上、観測史上初の短時間での降雨量に達したと報道され、10年前の台風23号の水害を思い出し眠れない夜を過ごしました。

翌朝7時に出勤してシャッターを開けると、想像以上の被害が。水は引いていたのですが、壁には浸水した水跡が残り、床には泥が付着していました。

作業場の床にはごみ箱やスリッパ、その他諸々の道具が散乱しており、電源もショートして停電していました。停電のため冷蔵庫内の温度が上がり、水が逆流してバッテリー、アーモンド等の材料が溶けて水浸しになっていました。残念ながら全て廃棄処分しました。

その日は営業をやめました。が、注文品や移動販売の予定が入っていましたので、早期の営業再開をするために、駆けつけで下さった利用者さん、職員2名で清掃、消毒をしました。

食洗機、パソコンとプリンターのバッテリー、それとおのころ屋

が開店したときから使用していた何十冊ものレシピ本や資料が浸水のため使用できなくなりました。機械は修理、購入することで処理できますが、レシピが無くなると作業が思うように進まなくなるのではと、ショックを受けていましたが、作業場担当の利用者さんたちがちゃんとレシピをメモに残しファイルしてくれました。

不幸中の幸いとはこのことですね！本当に心から感謝しても足りないぐらいの気持ちです。
何とか翌日から営業を再開することが出来ました。
おのころ屋一同、今まで以上に頑張りますので、これからもご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



▲店内から出した棚など 玄関前(10/14 撮影)

続々・地域を語る

中川原むかし話

かるた口説き

No.4

北岡肇

時は天正五年(1577年)七月八日、三好長治二代は、細川真之(十二代)を討とうとして逆に攻められて徳島県板野郡松茂町、長原別当浦の月見が丘にて自殺しました。享年25歳だったということです。

馬落ちのお薬師さん

まつる光照寺

淡路ふくろうの郷から北の方、約1⁺離れた小高い丘に宝

珠山・光照寺があります。その境内に淡路四十九薬師48番霊場の薬師堂があります。昔から「馬上の人を通さないお薬師さん」として知られています。

これから書くのは、その馬落ち薬師さんのお話です。

かつて阿波・徳島から淡路、そして京の都へのぼる街道が通っていました。この薬師堂は街道の近く「字・上の谷」に建っています。

本尊の「薬師如来像」は街道に向かって安置されていました。ところが不思議なことに、この薬師堂の前を馬に乗って通ろうとすると、どうしたにか馬があばれ出し馬子が手綱をさばくのに一苦労、馬上の人は馬の立て髪にかじりついても落馬し、どうしても通してくれません。

当時弟の存保は、河内国の叔父三好長慶の居城芥川にいて、すでに讃岐の十河氏をついでいました。が、阿波の勝瑞城主に迎えられました。

存保が阿波国に赴く途中、お薬師さんの前を通ろうとすると、馬が暴れ出し落馬しました。それ以来病みつき、早く平癒するよう祈願のためお堂を建て薬師如来を安置したという話も伝承されています。

しかし、その後も薬師堂の前で馬上の人の落馬が続きました。

このため、不思議なお薬師さん何とかこんなことが起きないように「字上の谷」にあった薬師堂を建て替えることになり、現在の光照寺境内の北側に移し、本道も街道向きではなく南向きとなり、本尊「薬師如来座像」も南正面に向かって安置し落馬もなくなったということです。

デイサービスセンター 桜ヶ丘

日帰りで楽しむ

有馬温泉旅行



利用者さん皆さんにお声かけすると、「懐かしい、行きたい」「行つた事がない、初めて!」「旅行は久しぶり」「病院の診察日をずらしても行きたい」と11名の方々がご参加下さいました。

金の湯は、噂に聞いてはいましたが、湯船の底が見えないくらい濁つていて、皆さん足で探りながらそろそろと湯に浸かり「すごいねえ、あつたまるね」と。白いタオルが茶色に変わっているのを見て、驚かれていました。

谷口さんは、「いつもデイサービスでは、職員に背中を流してもらつてばかりで申し訳ないから、今日は、私が流すわね」と、職員の背中を流して下さいました。

旅行から帰り、次のデイサービスに來られたときに、ご友人やご家族にお土産を渡したら、喜んでくれました、楽しかったと皆さんからお声をいただきました。

「家族さんからも、またこんな機会をとっていただきました。

「天気は企画者の精進が悪かつたからと違うか?」と厳しいお言葉もいただきましたが、「今度は、葉もいただきましたが、今度は、香住か?」と、出発前から、次の計画のお話も出ていました。

利用者さんの元気につながる計画を考えていきたいと思えます。

(デイサービス:竹内)

いつもご支援ありがとうございます



←北岡肇様にいただいた大きな枝豆。入居者みなでちぎりました。



←柳学園からさつまいもをたくさんいただきました。

作品紹介

10月23日

手話サークルとの交流



「一早早いサンタクロース」濱田たき彗様(97歳)